

歴史的分野

## 自主性を育て、思考と認識を深める社会科指導

～「日本の民主化と国際社会への参加」の実践を通して～

笠松町立笠松中学校 北村昌弘

### 1 はじめに

ここに示す実践例は、10月の本校自主発表会において授業公開させていただいたものです。中学校社会科歴史的分野における改訂の要点として示された、『近代史を重視する。特に、第2次世界大戦後以降を二項目とする。』の部分にあたる実践事例になっています。

### 2 歴史的分野の研究内容にかかわって

研究内容に示された、『時代を概観し、単元の課題を作成し、基礎的・基本的な内容を身につけ、思考と認識を深める単元構成と単位時間』『各単元及び各単位時間の評価基準ならびに評価基準』にかかわって、次の4点について実践した。

#### (1) 時代を概観し、単元の課題を作成する

第1時に年表資料や写真資料をもとに、戦後の日本の様子を概観し、単元の課題「どうしてこんなに早く国際社会に復帰することができたのだろう」を設定した。

#### (2) 基礎的・基本的な内容を身につける

授業の終末に、学習内容を文章でまとめる場を確保した。生徒が自分の言葉で、学習内容をまとめることができるようキーワードとなる用語や語句を強調した構造的な板書をめざした。

#### (3) 思考と認識を深める単元構成と単位時間

第1時ではGHQの政策とその影響について、第2時では世界情勢としての朝鮮戦争について学ぶ。これらを思考の足場として、本時の「日本経済の復興」に臨めるよう単元の構成を考えた。また、本時では「日本経済が、なぜこんなにも早く復興することができたのだろう」という課題に対して、「GHQの政策」、「朝鮮戦争の影響」、「国民の努力」という追究の視点をもつことができる。そこで、個人追究後に

小集団交流を位置づけ、仲間とのかかわりの中で多面的・多角的な追究ができるようにした。

#### (4) 単元の評価基準と単位時間の評価基準

単元の評価基準として示された内容に対応させ、単位時間の評価基準を考えた。1単位時間あたり2～3つと現実的ではない面もあるが、評価方法を「ノートの記述」として緩和を図った。

### 3 新しい単元の教材化

本単元は学習指導要領の「キ 第2次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解させる。」を受けたものである。(内容の取り扱い)には「キキについては、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせるようにすること。」と示されている。しかしながら、教科書や資料集には「国民の努力に気付くことができる」ような資料は見当たらない。そこで「生産性をあげるためにローラースケートをはいている女工」、「石炭の増産運動」などの写真資料と共に、中條高德著「〔孫娘からの質問状〕おじいちゃん戦争のことを教えて」の一説を資料とした。

### 4 成果と課題 (成果・課題)

(1)～(3)により、ある程度は思考と認識を深めることができた。

中條氏の著作を資料としたことで、国民の努力に気付かせることができた。

思考と認識を深めるための全体交流での話し合いの組織化の工夫を図る必要がある。

単元の評価基準と単位時間の評価基準の関係を明らかにし、実用的な評価基準を工夫する必要がある。

